

登録コード:MH633100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	肉眼解剖学実習【理作20M以降】 Practical Human Anatomy			
担当教員	寺田 信生 務臺 均・佐藤 正彬・佐賀里 昭・小宅 一彰・北川 孝			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	後期 木曜・1 時限 木曜・2 時限			
単位数、講義室	2 単位	医学部解剖実習室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		人体構造からなる人間の営みの理解から、ヒトの尊厳について考えながら患者に接することができるようにする。	
	MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		人体構造を分類しながら説明できるようにし、これらが運動しての人体を理解して病態への理解につなげていくことができる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		人体構造の実体に基づいて、新事実も理解しながら科学的に対応できる心構えを持って医療が行えるようにする。	
	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	前期講義では、「系統解剖学」として器官ごとに人体構造を修学した。この御献体を使わせて頂く肉眼解剖学実習では、それらの系統解剖学の知識を組み合わせ統合した理解をする局所解剖の視点を持ちながら、人体構造と機能を実体として正確に把握することを目的とします。 本授業は、1 年時に学ぶ「生理学」「組織学」「生化学」などと合わせて人体のしくみを理解し、さらに病態を学んでいくための重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医学における人体解剖知識の基礎から病気の診断と治療の臨床にわたって、医師としての実務経験を活かして講義と実習を行います。副担当教員も医療専門スタッフとしての実務経験をもち、臨床の場で実践的に必要な人体解剖の理解ができるようにします。 本授業は、人体の理解を通して男女の個人としての人權の尊厳についても学ぶ、男女共同参画に関する内容を含んでいます。			
授業計画	実習手引書「解剖実習の手びき(南山堂)」(テキスト) のセクション(§) に従って進めます。 進行具合がグループによって異なるために、1～2回分の予定となっています。 第 1回 (10月 1日) §1-4 体幹皮切・11,12 上肢皮切・53 下肢皮切・73 顔皮切 第 2, 3回 (10月 8日,10月15日) §5 頸部浅層・8-10 頸部深層・11,12 腕神経叢,上腕前面・55 大腿前面 第 4, 5回 (10月22日,10月29日) §6,7 背中皮切・13,14 上肢帯,上肢・53,54 臀部皮切,臀部浅層・56-58 臀部深層,大腿後面,下腿後面 第 6, 7回 (11月 5日,11月12日) §59-61 下腿前面,足底・26-28 背筋,脊髓・72 頭蓋連絡 第 8回 (11月19日) §77 脳出し;中枢神経解剖で使用・78 頭蓋内面・86-87 眼窩,眼球・14-17 前腕 第 9,10回 (12月 3日,12月10日) §16-20 前腕,手・30 肩径部,腹筋・31-34 腹腔・43,44 腹部内臓・29 胸壁・35-37 胸腔,胸膜,心膜,肺・38 頸部深層 第11,12回 (12月17日,12月24日) 49-41 縦隔,心臓・42 縦隔深部・45-49 腹部内臓・74-80 頭部-鼻腔,咽頭,喉頭,甲状腺・62 膝関節・22-24 肩関節,肘関節, 第13,14回 (1月 7日, 1月14日) §50-52 腎臓,胸腹壁後部・52 横隔膜,腰神経叢・64 膀胱・65 外陰部・66-69 骨盤臓器・70 仙骨神経叢・73,81,82 咀嚼筋,顎関節・84 副鼻腔・25 手首～手の関節・63 足首～足の関節・71 股関節 第15回 (1月21日) まとめ, 片付け、授業アンケートの実施 第16回 (1月28日) 期末試験 手順の概略は、プリントとしても配布します。 4～5回分を目安に進行具合に合わせて小テスト(口頭試問)を行います。			
授業の進め方	6-7人をグループとして、解剖実習を進めます。 手順の概略を、あらかじめプリントと合わせて説明しておきますが、毎回授業計画にあ			

授業の進め方	各セクションをよく予習をしていくことが大切です。 上肢・体幹・下肢などを同時に進行するので、グループでローテーションしながら御献体によく触れながら剖出して、手引きやアトラスを参考にしながら人体構造をひとつひとつ丁寧に理解するようにしてください。
テキスト，教材，参考書	テキスト 解剖実習の手びき（南山堂） プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院） 解剖を的確に行うために、あらかじめ説明するプリントで解剖手順の概要を把握し、手順を記述した「実習手引書」と人体構造が実体に基づいて正確に描かれた「解剖学アトラス」の2つをテキストとして各自で内容をよく把握しておいてください。これらを解剖実習室に持ち込みながら、ひとつひとつをよく理解しながら実習を進めることが大切です。 実習室に、上記の他の人体解剖に関連した実習書やアトラスを持ち込んで実習を行うことは、かまいません。
成績評価の方法	実習中の小テスト（口頭試問）（20%）、レポート内容（予習と復習）（15%）、期末試験（65%）を行って成績を評価します。 小テストや期末試験では、全身の人体構造の名称を機能と共に理解をしていて御献体を指し示しながら説明できるかを確認します。試験の結果については、実施後にフィードバックします。
成績評価の基準	成績評価反転基準は下記のとおりです。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、行動目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	[事前学習について] 毎回、授業・実習の終わりに、次回までに調べてくる内容について説明を行います。 [事後学習について] 毎回、授業・実習中に、前回の授業・実習の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間＋自己学習時間30時間＝90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	尊い御献体を用いさせて頂いて人体を本物で理解ができるという大変貴重な実習ですので、時間を大切に学習しましょう。十分な予習を行ったうえで御献体の解剖を行うことが大切です。 御献体に対して礼を失することの無いよう、自分の親や自分の体だと思いながら真摯な態度で実習に臨むようにしましょう。画像撮影は決して行ってはなりません。 御献体の尊い御意志に報いるには、常に勉強させて頂くという謙虚な態度そして人体構造を確実に理解するという自らの学修で応えるようにしましょう。 質問への対応：寺田 信生 nobuot@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：対応時間は、上記メールアドレスに確認してください。 保健学科南校舎3階 寺田研究室